



【出席報告】

・会員数 54名
 ・当日出席率 76.00%
 ・出席数 39名
 ・前々回修正出席率 100%
 ・欠席数 15名

<欠席会員>阿部、原、平田、木村、小堀、眞鍋、岡本、坂本、田崎、田中、吉田、八木(真)

[免除会員] 青野(明)、檜垣(巧)、白石

<4/18欠席補填> (4/5 西条 RC) 阿部 (4/10 東予 RC) 桑森 (4/15 今治北) 原、平田、廣川、小堀、久米、眞鍋、岡本、越智、米北

◇会長報告

・今治市緑の募金推進協議会へ、集まった15,710円を寄付します。ご協力ありがとうございました。

◇幹事報告

・5月のロータリーレートは1ドル112円です。
 ・ロータリーの友5月号(横組みP.9)に八木正史会員が寄稿した『今治青少年ロータリー友の会』が掲載されています。
 ・4月28日(日)に福岡で行われた第7回全国インターアクト研究会に阿部真弓青少年奉仕委員長と明德高校矢田分校IAC顧問の野住幹生副校長、および生徒1名が参加されました。
 ・次週5月16日は職場訪問例会です。高橋ふれあいの丘のFC今治ありがとうサービス、夢スタジアムを訪問します。スタジアムの上まで車でお越しください。親睦活動委員会が誘導します。通常より早い12時15分開会となります。開会10分前までにお集まりください。

◇親睦活動委員会・誕生日スピーチ・岡田昌平会員(54歳)：この春から二女が進学し、夫婦水入らずの楽しい暮らしを送っています。▼西信正男会員(64歳)：趣味の囲碁はAIやソフトの進化が著しく、彼らに勝つのが難しくなってきました。医療の世界ではまだ人間が上ですが、画像解析などは費用がかさむもののソフトが上回る部分もあり、数年後はどうなっていることでしょうか。今後ともよろしくお祈いします。

新会員卓話

◆城山拓二会員『再生可能エネルギーの現状と課題』：昨年7月3日、第5次エネルギー基本計画が閣議決定されました。その中で太陽光発電など再生可能エネルギーの電源構成比率を現在の9.6%から2030年には22~24%へ拡大を目指すこととされましたが、建設コストや固定価格買取制度(FIT制度)による国民負担の増大、天候や季節によって発電量が変動する需給調整の対策などの課題が残っています。▼太陽光や風力発電の建設コストは海外に比べ約2倍。設備代の高騰や平地が少ない地理条件が要因ですが、政府は2030年までに諸外国と同じ水準にまで引き下げることを目指しています。一方、FIT制度とは再生可能エネルギー発電した電気を決まった価格と期間で電力会社が買い取り、その費用を使用量に応じて国民から賦課金として回収する制度。2012年に0.22円/kWh(一般家庭に換算して年間約700円)で始まった賦課金は8年経った今年、約13倍となる2.90円/kWh(同約9千円)にまで高騰し、負担総額が約2.4兆円に達しています。▼電力は需要と供給を常に一致させる必要があります。そのため発電量が変動する再生可能エネルギーは消費量にあわせて火力発電などでバックアップしなければなりません。その悪例が昨年9月の北海道胆振東部地震によるブラックアウト。苫東厚真火力発電所が地震で停止、そして感電や機器損傷を防ぐため、分散型電源の太陽光や風力が停止しました。それぞれ伊方3号機の89万kWを超える140万kW、40万kWという大容量を誇り、個々で動き続けられるものの、自然任せなので発電量が一定せず、周波数を乱すために停止せざるを得なかったのです。このようにたとえメガソーラーが原発1基分に相当する発電量があるとしても、再生可能エネルギー発電が増えすぎると全体の動きが乱れやすくなり、バックアップに失敗すれば需給バランスを保てず停電する可能性が生じます。本年5月5日の太陽光発電の最大出力は187万kW(12時~13時)を記録し、電力需給に占める割合は87%(昨年5月5日は80%)に達しました。今後も太陽光発電の導入が進み、発電量が余剰となる状況なら再生可能エネルギーの出力制御が必要になります。▼今後はメガソーラー開発に伴った景観や環境保全に関する住民トラブル、更新時期を迎えたメガソーラーの経済性担保、稼働を終えたパネルの不法投棄防止などが課題です。特に経済性を理由にメガソーラー発電所の廃止が相次ぐと電力安定供給に支障を来しかねません。とは言え自給率と環境性に優れる再生可能エネルギーは重要な電源のひとつ。四国電力としても国のエネルギーミックス方針を踏まえ、お客さまへの安定供給を大前提に最大限活用したいと考えております。

次回例会(5月16日)

【職場訪問例会】

日時：2019年5月16日(木)

12:15~

場所：FC今治ありがとうサービス夢スタジアム(新都市イオンモール向い)

[笹]